【入場予約開始】「Hakuten Open Studio 2026」トークセッション、約40のプロジェクト展示など各コンテンツを公開

5回目のテーマは「COMMONS（コモンズ）」。1年間の取り組みやプロジェクト・プロトタイプの展示に加え、トークセッション、ワークショップ、博展オリジナルプロダクトに出会える「KIOSK」を展開



“人と社会のコミュニケーションにココロ通わす体験をつくる”博展（本社：東京都中央区）は、2026年12月9日（水）から12日（土）の4日間、制作スタジオ「T-BASE」（東京都江東区辰巳）で開催する「Hakuten Open Studio 2026（通称：HOS／ホス）」の入場予約を、本日11月17日（火）よりPeatixにて開始しました。入場は無料（要予約）です。

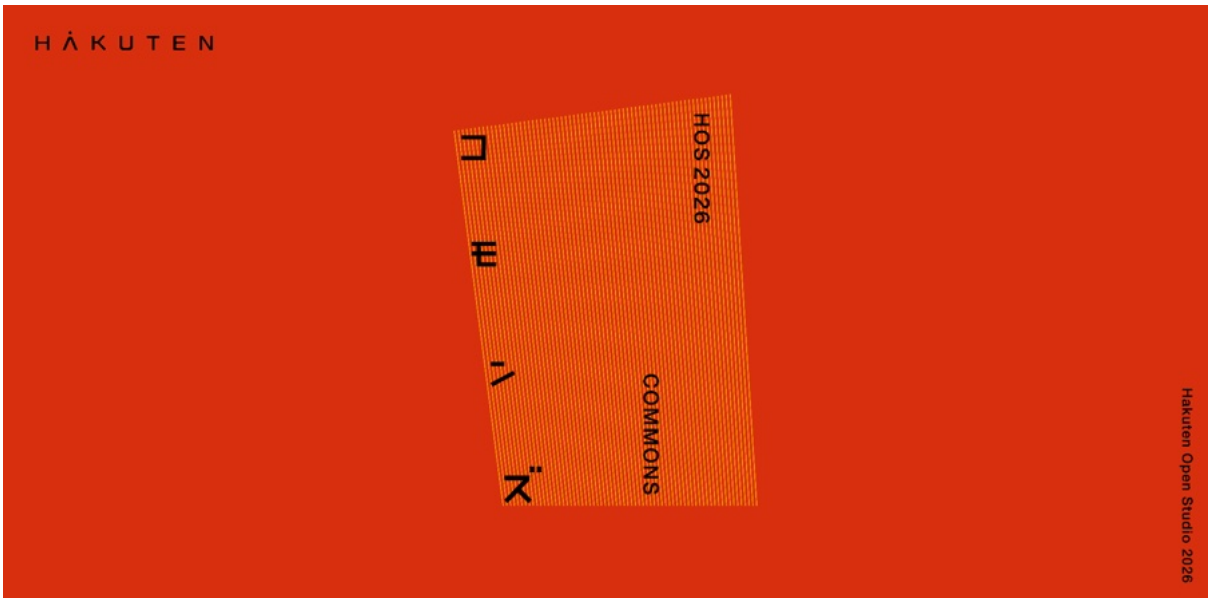
あわせて、本イベントのコンテンツの詳細を公開します。今年は、博展が年間約2,500件手がけるプロジェクトの中から、約40のプロジェクト・プロトタイプを展示するほか、パートナーや領域の異なるクリエイターをゲストに迎えるトークセッション「COMMONS TALK」、博展の制作部によるワークショップ、博展のオリジナルプロダクトに出会えるショップ「KIOSK」などを展開します。

▼入場予約はこちら（Peatix）：https://hos-2026.peatix.com
※無料の入場チケットのうち、ご来場予定の時間帯のものをお申し込みください。

今年のテーマは「COMMONS（コモンズ）」。異なる背景を持つ人々の知恵や技術、アイデアが共有され、創造の可能性が広がっていく「創作の開かれた共有地」を掲げ、完成した成果物だけでなく、創造のプロセスやプロトタイプを来場者と共有する“体験の実験場”となります。

※テーマの詳細・ステートメントは第一弾リリースをご覧ください：https://digitalpr.jp/r/146343
※イメージは昨年（HOS 2025）の写真になります

■「Hakuten Open Studio 2026」開催概要



・**イベント名称：**Hakuten Open Studio 2026
・**テーマ：**COMMONS（コモンズ）
・**会期：**2026年12月9日（水）～12日（土）の4日間　10:00～18:00　※最終日のみ17:00まで
・**会場：**株式会社博展 T-BASE（制作スタジオ）〒135-0053 東京都江東区辰巳3-13-25（展示面積 約500坪／約1,650㎡）
東京メトロ有楽町線「辰巳駅」から徒歩10分／りんかい線・JR京葉線・東京メトロ有楽町線「新木場駅」から徒歩15分
・**入場料：**無料（要予約）
・**入場予約：**https://hos-2026.peatix.com
・**主催：**株式会社博展
・**協力：**株式会社純光社（会場電気工事）、株式会社シーマ（映像・音響機材）、フォトビション・ジャパン株式会社（一部の会場サイン制作）
・**特設サイト：**https://hos.hakuten.co.jp/2026（コンテンツ情報は随時更新）
・**同時開催：**SHINKIBA CREATIVE HUB 2026（2026年12月10日～12日／新木場・辰巳エリア各所／会期中は「無料巡回バス」が周遊）

■展示構成：テーマに合わせた共有地エリアと、約40のプロジェクトを、思考と試行のプロセスとともに公開

会場は、制作スタジオ「T-BASE」内の約500坪（約1,650㎡）の空間を丸ごと活用し、今年のテーマ「COMMONS」を空間として形にした「コモンズ フィールド」と、約40のプロジェクトを展示する「エキシビジョン」の大きく2つのエリアで構成されています。

【コモンズ フィールド】

今回のテーマに合わせ、共有地としての空き地（余白）とステージエリア。各々がコンテンツを持ち寄るコモンズトークを中心に、聞いたり、飲んだり、話したり、コモンズというテーマを感じられる展示も見ることができます。会場の中で、COMMONS（共有地）を体験できるエリアです。

【エキシビジョン】

博展は年間約2,500件のプロジェクトを手がけています（博展単体、2025年実績）。エキシビジョンエリアは、2026年に博展が手がけたクライアントワークやパートナーとの共創プロジェクトを含むプロジェクトエリアと、プロトタイプ（研究開発）エリアの2つで構成されます。合わせて約40のプロジェクトを展示します。完成した成果物だけでなく、その背景にある思考のプロセスや試行錯誤とともにご紹介します。



【注目の展示（一部）】

・はてな展（× 株式会社ENTAKU produce）
詳細はこちら：https://www.hakuten.co.jp/works/entaku_hatena-exhibition

・平成恋愛展（× 株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ）
詳細はこちら：https://www.hakuten.co.jp/works/sony-creative-products_heiseirenai

・細川洋行 コーポレートブランディング（× 株式会社細川洋行）
過去の一部ブランディング実績はこちら：https://www.hakuten.co.jp/works/hosokawa-yoko_cheer-pack-branding

・ヨシロットン展　彼方との交信／BEYOND EARTH（複数企業との共同主催）
詳細はこちら：https://www.hakuten.co.jp/news/post_18231

・LOOPGLUE（× 株式会社ウィープラス × セメダイン株式会社）
詳細はこちら：https://www.hakuten.co.jp/works/loopglue

・ミカンとヨウカン（× 東京藝術大学）
詳細はこちら：https://www.hakuten.co.jp/news/post_17615

・触覚による体験の拡張（技術協力：株式会社村田製作所／株式会社ミライセンス「ふしぎな石ころ“echorb（エコーブ）”」）
　本イベントにて初公開プロトタイプ。過去の実績はこちら：https://www.hakuten.co.jp/news/post_16784

※内容は予告なく変更になる場合がございます。

■COMMONS TALK：異なる専門性が交わるトークセッション

会期中、「コモンズ フィールド」エリアのステージにて、博展のクリエイターがともにプロジェクトをつくり上げてきたパートナーや領域の異なるクリエイターをゲストに迎え、創作のプロセスやこれからの体験づくりについて語り合います。

※入場チケットでご参加いただけます。
※お席に限りがございます。満席の場合は、お立ち見でのご聴講となります。

#01｜12月9日（水）14:00～15:00　オープニングトーク

登壇：株式会社ロフトワーク 代表取締役CEO 松井創氏 × 博展 執行役員 南正一郎



#02｜12月9日（水）16:00～17:00　建築とインテリアデザインのクロストーク

内容：建築を主体とするアトリエ組織と、インテリアデザインを主体とするHAKUTEN INTERIOR DESIGN ROOM。両者のプロセスや視点の違いを、オープンに語り合います。
登壇：axonometric株式会社 代表 佐々木慧氏 × 博展 商環境事業部クリエイティブ局長 堀田純希



#03｜12月10日（木）11:00〜12:00　「触れるをつくる」から考える、触覚体験のいまとこれから

内容：デバイスを開発するメーカーのエンジニアと、空間を起点に体験を仕掛ける制作会社のエンジニアが、実際に「触れる」をつくってきたプロセスをもとに、触覚体験のいまとこれからについて語ります。
登壇：ゲスト（近日公開） × 博展 クリエイティブエンジニア／ハプティックデザイナー 吉原悠人



#04｜12月10日（木）14:00〜15:00　アート×建築×サスティナブル

内容：ロボットアーム型の大型3Dプリンターを使い、循環型の実験的な取り組みを続ける建築家・岡由雨子氏と、三菱ケミカルのモニュメントで協働した博展のサーキュラーデザインルームが、素材と循環のこれからについて語ります。
登壇：岡由雨子建築ディザイン 代表 岡由雨子氏 × 博展 空間デザイナー／アーティスト 高橋匠



#05｜12月10日（木）16:00〜17:00　デザイナーとプランナーの思考プロセス

内容：企画、ディレクション、アート＆デザイン。それぞれの立場で協業する3者が、最終的なアウトプットからは見えないクリエイティブのプロセスについて語り合います。「これってどう考えているんですか？」と互いに聞いてみたかった質問を中心に、デザイナーとプランナーの思考プロセスや、心地よい距離感と信頼関係の正体をひもときます。
登壇：株式会社6kai 代表取締役／アートディレクター／デザイナー 湊村敏和氏 × 博展 プランナー／クリエイティブディレクター 中島健希、プランナー／クリエイティブディレクター 上田洋介



#06｜12月11日（金）11:00〜12:00　インハウスの枠を越えて共創するクリエイティブの現在地

内容：クリエイターの働き方や組織との距離感が多様化する時代。メーカーを経て独立した横関氏と、メーカーに身を置きながら個人スタジオを展開する松山氏をお招きし、プロダクトデザインの最前線で活躍する両氏がどのように自身の表現とフィールドを拡張してきたのか。
DESIGNARTでも話題を呼んだ『Industrial Romanticism展@AXIS Gallery』の舞台裏から、個人の創作と組織での役割のバランス、これからのデザイナー像まで。博展の視点も交え、異なるフィールドで挑むクリエイターたちの共通点と差異をフラットに語り合います。

登壇：RYOTA YOKOZEKI STUDIO プロダクトデザイナー／ディレクター 横関亮太氏、Atelier Yoshiki Matsuyama／三菱電機株式会社 プロダクトデザイナー 松山祥樹氏 × 博展 クリエイティブディレクター 歌代悟



#07｜12月11日（金）13:00〜14:00　日常の素材から「まだ見ぬ光」を抽出する実験記録 ——『光の標本』制作エピソード

内容：未知なる光を探求する展示『光の標本』。日常の素材に光を通し、床へ投射する体験はどのように生まれたのか。着想のきっかけから機構設計、光と音の連動まで、制作の裏側をひもときます。
登壇：株式会社STARRYWORKS エンジニア 足立紗彩氏 × 博展 プランナー 安江史朗



#08｜12月11日（金）15:00〜16:00　江東区ものづくり団地 × SHINKIBA CREATIVE HUB「ものづくりとシビックプライド」

内容：江東区内の優れた技術やものづくりを守り、継承し、発展させる「江東区ものづくり団地」と、同じ江東区の新木場エリアで産業の活性化に取り組む「SHINKIBA CREATIVE HUB」が、ものづくりとシビックプライドについて語ります。
登壇：株式会社スマイルズ 取締役 兼 CHRO 吉田剛成氏、江東区 地域振興部 経済課 江口孝之氏 × 博展 Studioコー クリエイティブディレクター 中里洋介（モデレーター：博展 Studioコー 空間デザイナー／コミュニケーションデザイナー 藤原慧茉）



#09｜12月12日（土）14:00〜15:00　メディアと若者のコミュニティー形成のあり方

内容：「何か面白いことをしたい」という思いを持った若者たちは、どのように出会っていくのか。東京という街を中心に、どのようなコミュニティーが生まれていくのか。メディアやクリエイションを通じたコミュニケーションのあり方を、街で出会った仲間たちと探ります。
登壇：メディアサーフコミュニケーションズ株式会社 編集者／ディレクター 濱名竜之介氏、フリーランス デザイナー／グラフィックアーティスト 伊藤慎治氏 × 博展 プランナー／アートディレクター 成川就一



※最新情報は特設サイト（https://hos.hakuten.co.jp/2026）にて随時お知らせします。
※内容は予告なく変更になる場合がございます。

■WORKSHOP：制作部によるオープンファクトリー

博展の制作スタジオ「T-BASE」で日々ものづくりを担う制作部が、制作の現場をひらき、ものづくりを体験できるワークショップを会期中に開催します。制作の過程で生まれる木材の端材を使って鏡餅をつくるワークショップのほか、今年のテーマ「COMMONS」にちなみ、来場者一人ひとりがピースを持ち寄って、みんなでひとつのモニュメントをつくり上げる共同制作も行います。会期を通じて少しずつかたちを変えていくモニュメントの変化もお楽しみください。予約は不要です。スペースに限りがあるため、混雑時はお待ちいただく場合があります。



■KIOSK：HAKUTEN LIVING LAB初のポップアップショップ

博展が空間や体験づくりで培ってきたデザインとものづくりの知見を、暮らしの中で使えるプロダクトとして届ける取り組み「HAKUTEN LIVING LAB（ハクテンリビングラボ）」。会場内のKIOSKでは、同ラボ初となるポップアップショップを展開します。
樹種や節、色の違いをそのまま活かし、木をシンプルなキューブに切り出した「WOOD MASS」と、地場産業から出る木端（こっぱ）を再利用し、自由に組み立てて空間をつくる体験型コミュニケーションツール「kumoo」を販売します。kumooは、かえつ有明中・高等学校とともに開発し、第19回キッズデザイン賞を受賞するなど、国内外のデザインアワードで評価されています。あわせて、今後発売を予定しているプロダクトもいち早く展示します。このほか、博展のクリエイターが個人の活動として手がけるプロダクトの一部も、展示・販売します。
※kumooの価格・ご購入については、会場スタッフまでお問い合わせください。

■CAFE & FOOD TRUCK：コモンズとして集う場を彩る飲食



今年のテーマである「COMMONS（コモンズ）」を象徴する、集いの場を彩る飲食コンテンツをご用意しています。 12月10日（木）～12日（土）の3日間限定で、博展の社内コミュニケーション施策として日頃から実施している「Cafe Tokidoki」が特別にオープン。「OHAYOGOZAIMASUCOFFEE」などの協力のもと、自社で焙煎したこだわりのコーヒーをご提供いたします。 また、普段からT-BASEを訪れている地域のキッチンカーも出店します。美味しいランチやコーヒーなどの飲み物を片手に、展示やトークの合間の休憩はもちろん、来場者同士がフラットに集える場としてぜひご利用ください。

■同時開催：SHINKIBA CREATIVE HUB 2026



会期中の12月10日（木）～12日（土）には、博展が株式会社榎戸材木店とともに実行委員を務める地域回遊型イベント「SHINKIBA CREATIVE HUB 2026（通称：シンハブ）」も同時開催します。新木場・辰巳エリアの工場や会社など9会場がひらかれ、ものづくり体験やマーケット、食が楽しめるイベントです。会期中は無料巡回バスも周遊します。さらに地域の企業・学校など26団体が参加し、素材・技術・人の営みに触れられます。あわせてお楽しみください。

詳細はこちら
・特設サイト：https://shinkiba-creative-hub.com/
・リリース：https://digitalpr.jp/r/148059

■昨年の開催について

初めて一般公開した昨年のHOS 2025には、前年比195%となる延べ1,496名が来場しました。イベントそのものが、世界的なデザイン・広告賞「D&AD Awards 2026」にてShortlisted（入選）に選出されています。



・2025年 開催リキャップ動画： https://youtu.be/MnY4JB7mcag
・2025年 開催レポート： https://www.hakuten.co.jp/tex/blog/report_hos2025

株式会社博展
代表者：代表取締役会長執行役員／田口徳久、代表取締役社長執行役員CEO／原田淳
所在地：〒104-0031東京都中央区京橋三丁目１番１号東京スクエアガーデン20F
設立：1970年3月
事業内容：パーパス「人と社会のコミュニケーションにココロを通わせ、未来へつなげる原動力をつくる。」のもと、多様な“体験”を統合的にデザインし、企業や団体のマーケティング課題の解決に貢献しています。

▼公式サイト
コーポレートサイト：https://www.hakuten.co.jp
これからの“体験”を考えるwebマガジン「THINKEXPERIENCE（TEX）」：https://www.hakuten.co.jp/tex

▼公式SNS
Instagram：@hakuten__（https://www.instagram.com/hakuten__）
X：@HakutenCorp（https://x.com/HakutenCorp）

▼取材に関するお問い合わせ
株式会社博展　広報・PR担当
E - Mail：pr@hakuten.co.jp